# 利尻島南部オタドマリ沼で1970年代に採集された蘚苔類標本

大石善隆 1)·山谷文人 2)·佐藤雅彦 3)

<sup>1)</sup> 〒 910-1195 福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島 4-1-1 福井県立大学 学術教養センター
<sup>2)</sup> 〒 097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野 利尻富士町教育委員会
<sup>3)</sup> 〒 097-0311 北海道利尻群利尻町仙法志字本町 136 利尻町立博物館

# Bryophyte Specimens Collected in the 1970s at Otadomari-Numa, Southern Rishiri Island

Yoshitaka Oishi<sup>1)</sup>, Fumito Yamaya<sup>2)</sup> and Masahiko Satô<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Fukui Prefectural University, Center for Arts and Sciences, Fukui, 910-1195 Japan <sup>2)</sup> Rishirifuji Town Board of Education, Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan <sup>3)</sup> Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

**Abstract.** Bryophyte specimens collected in 1975 at Otadomari-numa, southern Rishiri Island, northern Hokkaido, are preserved at Rishirifuji Town Board of Education. These samples included 31 moss and 8 liverwort samples. After re-checking of the original identifications, 30 moss and 9 liverwort species are listed in total based on these samples. Among them, seven species are the first recorded for Rishiri Island.

### はじめに

利尻島におけるコケ植物調査は 1950 年代から記録が見られ (Hattori, 1957), それ以降も断続的に新産種の報告や再調査が行われてきた (Iwatsuki, 1962; 千葉, 1974; 大石・山田, 2008). 今回, 1970 年代における利尻島のコケ植物調査で使用された標本を筆者らが確認する機会を得たので、標本の再同定とともに本資料についてあらためて報告を行うこととした.

#### 資料の位置づけ

本資料は、「オタドマリ沼湿原地帯に生育する苔蘚類 東利尻教育委員会」と題された手製ファイル1冊(縦27.5×横18cm、14ページ)であり、それぞれのページにコケ植物標本が収められた封筒が39点添付され、封筒には採集データと同定結果が記されていた(図)、このファイルは1975(昭和

50) 年11月付けで東利尻町教育委員会教育長宛に送付されており、発送者は本調査を担当した斎藤實氏であった。斎藤氏は、1975(昭和50)年前後にかけ北海道立教育研究所の所長をされ、利尻島郷土資料館高山植物園設立の指導にも関わった(利尻島



図. ファイル中の標本添付のページ.

表 1. 「オタドマリ沼湿原地帯に生育する苔蘚類 東利尻教育委員会」に収蔵されていたコケ植物標本

番号	学名	和名
M1	* Sphagnum recurvum P. Beauv.	アオモリミズゴケ
M2	* Sphagnum recurvum var. brevifolium (Lindb.) Warnst	サンカクミズゴケ
М3	Sphagnum capillifolium (Ehrh.) Hedw.	スギバミズゴケ
M4	Sphagnum cuspidatum Ehrh. ex Hofm.	ハリミズゴケ
	+Warnstorfia fluitans (Hedw.) Loeske	ウカミカマゴケ
M5	Sphagnum girgensohnii Russ.	ホソバミズゴケ
M6	Sphagnum magellanicum Brid.	ムラサキミズゴケ
M7	Sphagnum squarrosum Crom.	ウロコミズゴケ
M8	* Oncophorus wahlenbergii Brid.	エゾノコブゴケ
	+Rhizomnium striatulum (Mitt.) T. J. Kop.	スジチョウチンゴケ
M9	Dicranum fuscescens Turner	チャシッポゴケ
	+Bazzania denudata (Torr. ex Lindenb.) Trevis.	タマゴバムチゴケ
M10	Dicranum majus Turner	チシマシッポゴケ
	Pleurozium schreberi (Brid.) Mitt.	タチハイゴケ
Mll	* Dicranum polysetum Sw.	ナミシッポゴケ
M12	Dicranum scoparium Hedw.	カモジゴケ
	+Lophocolea heterophylla (Schrad.) Dumort.	トサカゴケ
	+Cephalozia otaruensis Steph.	オタルヤバネゴケ
M13	Pohlia sp.	ヘチマゴケ属の 1 種
M14	Mnium orientale R. E. Wyatt, Odrykoski & T. J. Kop.	トウヨウチョウチンゴケ
	+ D. fuscescens	チャシッポゴケ
M15	* Rhizomnium magnifolium (Horik.) T. J. Kop.	セイタカチョウチンゴケ
M16	+ R. striatulum	スジチョウチンゴケ
	Calypogeia integristipula Steph.	ミヤマホラゴケモドキ
	+Campyliadelphus sp.	コガネハイゴケ属の1種
M17	* Aulacomnium palustre (Hedw.) Schwägr.	オオヒモゴケ
M18	Thuidium tamariscinum (Hedw.) Bruch & Shimp.	オオシノブゴケ
	+Brachythecium sp.	アオギヌゴケ属の1種
M19	W. fluitans	ウカミカマゴケ
M20	Calliergon cordifolium (Hedw.) Kindb.	ササバゴケ
	+ S. cuspidatum	ハリミズゴケ
M21	Brachythecium sp.	アオギヌゴケ属の1種
	+ Trachycystis flagellaris (Sull. & Lesq.) Lindb.	エゾチョウチンゴケ
	+ T. tamariscinum	オオシノブゴケ
M22	Plagiothecium lateum Schimp.	ナンブサナダゴケ
M23	P. schreberi	タチハイゴケ
M24	* Callicladium haldanianum (Grev.) H. A. Crum.	クサゴケ
M25	Hypnum cupressiforme Hedw.	ハイヒバゴケ
	+ C. haldanianum	クサゴケ
M26	Hypnum pallescens (Hedw.) P. Beauv.	キノウエノハイゴケ
	+ Lepidozia vitrea Steph.	スギバゴケ
M27	Hypnum plicatulum (Lindb.) A.Jaeger & Sauerb.	ミヤマチリメンゴケ
M28	Hypnum subimponens Lesq. subsp. ulophyllum (Müll. Hal.) Ando	ヤマハイゴケ
M29	Rhytidiadelphus japonicus (Reimers) T. J. Kop.	コフサゴケ
M30	Pogonatum urnigerum (Hedw.) P. Beauv.	ヤマコスギゴケ
M31	Polytrichum juniperinum Willd. ex Hedw.	スギゴケ
Ll	Lepidozia reptans (L.) Dumort.	ハイスギバゴケ
L2	Bazzania trilobata (L.) Gray	エゾムチゴケ
L3	B. denudata	タマゴバムチゴケ
L4	C. integristipula	ミヤマホラゴケモドキ
	+ C. haldanianum	クサゴケ

表 1. (つづき)

番号	学名	和名
L5	C. integristipula	ミヤマホラゴケモドキ
L6	Chiloscyphus polyanthos (L.) Corda	フジウロコゴケ
	+ H. fluitans	ウカミカマゴケ
L7	C. otaruensis	オタルヤバネゴケ
	+ L. profundus	トサカゴケ
L8	Fuscocephaloziopsis leucantha (Spruce) Váňa & L.Söderstr.	タカネヤバネゴケ
	+ Cynodontium sp.	イヌノハゴケ属の1種

<sup>\*</sup> 今回, 新たに分布が報告された種

郷土資料館, 1976). 標本はすべて利尻島南部のオ タドマリ沼周辺にて、同氏によって1975年6月に 採取・同定されたものであった 1973 (昭和 48) 年の利尻島郷土資料館の開設に関わった古川恭司氏 (利尻富士町鴛泊) への聞き取りによると、開設間 もない資料館のために当時は様々な資料収集が行わ れたこと (古川、2018)、1974 (昭和49) 年には 町の教育研究会によって編纂されたと思われる「東 利尻町沼浦周辺植物」(千葉, 1974) が出版された ほか、北海道立教育研究所の研修会で知り合った斎 藤氏がコケ植物の専門家であったことなどから、沼 浦湿原のミズゴケなどが着目され、1975年の本コ ケ植物調査が実施されたと想像された。なお、本資 料はこれまで非公開資料とされてきたため、筆者ら の知る限り, これらの同定結果が公表されたことは ないように思われた

## 同定結果

本資料の標本が収められた封筒の点数は、セン類31点、タイ類8点であった。これらの標本を再同定したところ、混成種を含め、セン類30種、タイ類9種が確認され、その結果を表1に示した。なお、斎藤氏の同定以降、分類体系が変更になった種などもあるため、本表ではセン類の学名はIwatsuki(2004)に、タイ類の学名については片桐・古木(2018)に基づき、現行の分類体系になるべく沿ったものとした。この中で、7種が利尻島における初

確認種である.これらの種はいずれも日本の亜高山 帯以下に広く分布する種であることから,利尻島内 においても稀ではないが,調査不足などにより,記 録されていなかった可能性が高い.本結果は,利尻 島におけるコケ植物の多様性を考える上で,貴重な 資料となるだろう.

#### 引用文献

千葉武雄, 1974. 東利尻町沼浦周辺植物. 12pp. 冨士田裕子, 2000. 北海道利尻島種富地区の湿地 植生について. 利尻研究, (19): 61-66.

古川恭司,2018. 利尻島郷土資料館ものがたり. 24pp. 自刊.

Hattori S., 1957. Hepaticae of Hokkaido. 2 I. Rishiri and Rebun Islands. *Jour. Hatt. Bot. Lab.*, 18: 78-92.

Iwatsuki Z., 1962. Mosses of Rishiri and Rebun islands, Northern Japan. *Jour. Hatt. Bot. Lab.*, 25: 107-125.

Iwatsuki Z., 2004. New catalog of the mosses of Japan. *Jour. Hatt. Bot. Lab.*, 96: 1-182.

片桐知之・古木達郎, 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類 チェックリスト, 2018. *Hattoria*, 9: 35-102.

大石善隆・山田耕作,2008. 利尻島産のタイ類と ツノゴケ類,利尻研究,(27):63-72.

利尻島郷土資料館(編), 1976. 園の植物. 東利尻 町教育委員会. 7pp.

<sup>+</sup> 同一番号内に当時未確認の複数種が存在し、本調査にて新たに同定がされたもの